

記録的猛暑と 地球温暖化防止の取り組み



今年梅雨明け以降、記録的な猛暑が続いています。全国的に見ても、この夏の暑さは災害級だとよく言われますが、浜松でも、最高気温が35℃以上となる猛暑日が続く、連日のように熱中症警戒アラートが発令されています。

その一方で、ひとたび雨が降れば、線状降水帯の発生などで大雨となり、その影響により土砂災害の発生や河川の氾濫、低い土地の浸水などの被害が全国で多発しています。

このような、かつてない猛暑や自然災害の激甚化・頻発化には、地球温暖化が影響していると考えられます。昨年7月には、国連事務総長が、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」とコメントし、気候変動による地球規模の危機を回避する取り組みの必要性について訴えたのは記憶に新しいところです。これから、地球温暖化を防止するための気候行動を、世界、国、県、市、個人などさまざまな立場で加速していく必要があります。

気候変動への対策として脱炭素の取り組みが世界的に加速する中

で、国は2020年10月に2050年カーボンニュートラル宣言を行いました。本市では、それに先駆けて2020年3月に「ゼロカーボンシティ」を宣言し、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて官民連携で取り組みを進めています。

本市においては、今年3月に定めた新しい目標で、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量を、家庭部門では2030年までに市域全域で46.6%削減(2013年度比)することとしています。目標を達成するためには、市民の皆さん一人一人が、生活の中で排出される二酸化炭素を減らすことが必要となります。

本市では、市民の皆さんが家庭でできる省エネ対策などの取り組みを紹介する環境コラム「カーボンニュートラルへの挑戦」を、広報はままつ2023年5月号から毎月掲載しています(今号は11ページ)。ぜひ、ご覧いただき、人類共通の課題である地球温暖化防止に向け、脱炭素、省エネの推進にこれからも一層取り組んでいただくようお願いいたします。

《南信州地域271》

三遠南信 ふれあいウオーク

菱田春草

生誕150年記念特別展

創造の道筋

一画卷《四季山水》への歩み

10月5日(土)～11月4日(月)

飯田市追手町にある飯田市美術博物館では、飯田市出身の日本画家、菱田春草(1874～1911年)の生誕150年に際し、特別展を開催します。春草が作品を生み出すために何をしたのか、晩年の画卷《四季山水》の情感豊かな世界を旅しながら、制作の過程を探ります。



菱田春草《四季山水》(完成作・部分)東京国立近代美術館蔵

問い合わせ：飯田市美術博物館(飯田市追手町2-655-7)

☎ 0265-22-8118

HP ▶ 飯田市美術博物館

検索



菱田
春草

ひしだ
しゅんそう

1874(明治7)年に飯田町(現長野県飯田市)に生まれました。画家を目指して上京し、東京美術学校を卒業した後、日本美術院に参加して制作を続けました。美術学校や美術院では、思想家の岡倉天心から指導を受けています。

春草は生涯を通じて古画を研究し、写実を学び、「朦朧体」などの新しい日本画を開拓しました。4点の作品が国の重要文化財に指定されており、近代の日本美術を拓いた人物として名を知られています。

南信州
●飯田市
東三河
遠州